

日本教育大学協会が附属学校連絡協議会を開催

日本教育大学協会（会長＝出口利定・東京学芸大学長）は、附属学校連絡協議会を6月2日（土）、全国国立大学附属学校連盟（以下、学校連盟）との共催により、お茶の水女子大学講堂（東京都文京区）において開催した。

開会の挨拶で出口会長は、「『国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議（以下、有識者会議）報告書』にも記載があるように、我々に向けられている世間の目は大変厳しい。また、教育学部及び附属学校に強く改革を求めている学長も少なからずいる。このような危機的状況を受け、学校連盟との共催により、文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室の協力を得て、今年2月から地区別勉強会を実施し、これからの附属学校の在り方、改革について附属学校関係者と意見交換を行った。本日は、国立大学附属学校の機能をより洗練すべく、精力的にスピード感を持って改革に取り組んでいる附属学校の事例が発表される。各附属学校において改革の参考にしていただくとともに、本協議会を情報交換・共有の場として活用してもらいたい。」と述べた。続いて、高田教員養成企画室長から挨拶及び有識者会議報告書等について説明があった。

協議会の前半には、田中一晃全附連事務局長及び呉本啓郎全国国立大学附属学校PTA連合会会長（以下、全附P連）から、有識者会議に関する附属学校を対象にした地区別勉強会の概要と成果について、説明があった。

引き続き、現場の管理職である参加者が最新の知見を学ぶ機会を提供するために、「改革に向けて～現状と課題」をテーマに、①新潟大学教育学部附属長岡校園、②金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校、③大阪教育大学平野地区五校園、④島根大学教育学部附属学校園から、それぞれが行っている改革の事例について、発表があった。

その後、「地区別勉強会に参加して」と題して、柳澤好治文部科学省初等中等教育局教職員課長から、国立大学附属学校が抱えている課題と寄せられている期待について講演があり、最後に、丸山研一学校連盟理事長（前千葉大学教育学部附属中学校長）から、閉会の挨拶があった。



出口会長



丸山学校連盟理事長



柳澤教職員課長



高田教員養成企画室長



田中全附連事務局長



呉本全附P連会長



会場の様子